

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(川越町)の概要

10月30日(水)に川越町のつばめ児童館で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、NPO法人「子育てサポート ほっとまむ」から8名の皆さんにお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

【活動紹介】

Q. 子育てをしている人を見て感じる事。また、子どもたちを見て気づくことなど、生の声を聴かせてください。

○子どもは素晴らしい。ここで子どもたちと遊ぶことが楽しみ。

母親には手助けが必要だが、子どもたちにはいらないなと感じる。お母さんたちが頑張れるように支援するのが私たちの仕事だと感じている。

○子育ては本当に大変。生の声として「子育てがこんなに大変だとは誰も教えてくれなかった」と聞いたが、この方が今年の春に(サポーター)養成講座を受けてくれたことがうれしかった。まだサポートは始められていないが、いつか活躍して次の世代のために力を貸してくれたらうれしいと思っている。

○ファミリーサポートセンターの活動を通じて、利用者である母親等から助けになっ

ているとの声をいただいているが、本当に子どもたちの助けになっているのかと考えることがある。働く親御さんが、子どもが病気の際には仕事を休んで迎えにいけるような環境づくりを進めて欲しい。

- 私が県外から引っ越してきたときには母親学級はまだなかった。子育てのことで話す相手がいなかったため長女の子育ての際にはストレスが多かった。道もわからず外出するのが怖いとさえ思った。今ここに通っている母親達は気軽に訪れ、子どもを預かってもらい、ゆっくりと話をすることができる。母親が笑顔になれば夫も子どもたちも笑顔になれると思う。このようにちょっとした手助けで色んなことが上手くいくと感じている。
- 色々苦勞もあるが、8割方、子どもは微笑ましいということを伝えていきたい。子どもの発達に良いと聞き、7ヶ月のお子さんに絵本の読み聞かせをしているが上手くいかない悩んでいる母親がいた。7ヶ月のお子さんに読み聞かせは、まだ早いということが理解されていなかった。
- 子育てに関する情報量が多すぎて、親御さんが情報を正しく理解できていないのではないか。子育てを終えた我々が経験を伝えていかないといけない。

Q. 日頃の活動で、良かった点、もっと伸ばしていくために理想に近づけていくための課題についてお聴かせください。

- ファミリーサポートセンターの利用料は利用者の収入状況によっては負担が大きい。例えば生後〇ヶ月までは半額とするなどの補助も考えて欲しい。
- この地域でも3割強の方がセンターに未登録である。こういった施設へ来られない方の中に、本当に危険信号を発している方がいると思う。ブックスタートなどもあるが、町からも支援してもらい一度は来てもらえる工夫が必要ではないか。
- 自我が強くなる2歳ぐらいの子どもを持つ母親のストレスが高いと感じる。虐待防止に対する社会の意識が高まっている中で、外出先で叱りづらい。今まさに叱らないといけない時に躊躇してしまうことがある。
- 夫の転勤に合わせて三重県に来た当時、見ず知らずの社宅の母親達に子育てを手助けしてもらった経験があり、自分もできればと活動に参加している。
- 保育園からサポートしていて、現在、小学2年生になる子がいるのですが、学校から学童保育に行き、その後に私が預かり、家の方のお迎えを待っている。子どもたちが、自分がずっと預けられていることを可哀想に思わないよう気を付けている。母親への支援だけでなく、子供たちに自分が大事にされていることを伝えることも我々の仕事だと考えている。
- 近ごろ近所の怖いおじさんやお婆さんがいなくなったと感じる。悪いことは悪い、良いことは良いと子どもたちに教えられる大人を育てることも大事ではないか。地域で子どもを見守り声掛けしていくことで、子どもが自分のことを知ってもらっていると感じ、大人になっても同じように他人の子どもを叱れるようになれば、まち全体が良くなっていくと思う。

【知事の発言】

- 子育て期に支援を受けた方が、サポートする側にまわったことは大変うれしい。まさに皆さんの努力の賜物。皆さんの活動が共感を得た結果だと思う。
- ファミリーサポートセンターなど便利になるのは良いが、そもそも働き方や子どもを第一優先にできる風土づくりが大事。来年度は県としても企業向けの啓発に力を入れていくことにしている。
- 母親の安定が子育てには非常に重要だと考える。母親が笑顔になれることは大事。
- 学童保育などのお世話になっている子どもたちに、自分が親から大切にされていると伝えていただくことは、私の経験からも大事だと感じる。
- 県では平成 23 年 4 月に「三重県子ども条例」を制定するなど、地域社会全体での子育てを推進している。24 年度にまとめた「三重県子ども白書」の中では、自分が愛されていると感じる子どもほど、地域に住み続けたいと考えるというデータもある。地域全体で子どもたちを見守ることは、とても大事なこと。
- 私自身も子育ての真最中。皆さんと話をする中で、小さい頃の両親の苦労等を思い出して暖かい気持ちになった。みなさんのような方々こそが、きめ細かなサポートを実現できるのだと感じた。我々行政もしっかりと応援していくことで、一人でも多くの母親や子どもたちが笑顔になればと思う。



【子育てサポート ほっとまむの皆さん】とは

イベント時における集団託児の受託や、子育てサポーターの育成など、川越町つばめ児童館を中心に子育てのサポートに関する事業を行い、子育てしやすい環境作りに寄与することを目的に、平成18年3月から活動しています。